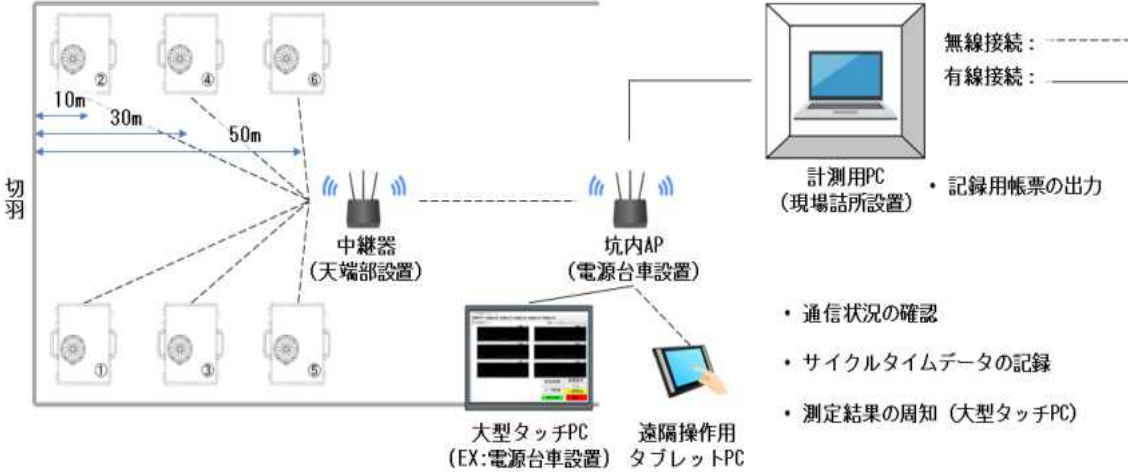


安全設備・技術応募フォーマット

| | |
|---------------------------|---|
| <p>連絡担当者</p> | <p>会社・部署（現場）名：マック株式会社 代表者氏名：宮原宏史 E-mail：miyahara.h@mac-net.co.jp</p> |
| <p>技術名称</p> | <p>トンネル粉じん測定システム</p> |
| <p>概要・活用方法</p> | <p>参考図・写真</p>  <p>無線接続：----- 有線接続：—————</p> <p>計測用PC (現場詰所設置) ・記録用帳票の出力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信状況の確認 ・サイクルタイムデータの記録 ・測定結果の周知 (大型タッチPC) <p>大型タッチPC (EX:電源台車設置) 遠隔操作用タブレットPC</p> |
| <p>特徴・効果</p> | <p>新ガイドラインに定められた粉じん濃度の測定方法は、①定点測定、②個人サンプリングによる測定、③車両系機械を用いた測定、④複数の測定方法の組合せの4方法があるが、本システムは、測定方法を①定点測定と想定し、粉じん濃度計、バッテリーと無線装置を収めた専用粉じん測定BOXを所定の位置に設置するのみで、無線を利用した遠隔でのリアルタイム計測を実現した。また、測定データから結果のグラフ表示・評価、呼吸用保護具に対する要求防護係数の算出、記録帳票作成までを専用ソフトで行うことで大幅な業務効率化の実現を想定している。</p> <p>また、別途開発された切羽監視責任者支援システムから、サイクルタイムの自動読み込みも可能となっており、工種別、サイクル内の平均値や最大値などが容易に把握可能となっている。</p> |
| <p>活用上の注意点</p> | <p>定期的な測定装置のフィルター交換が必要である。（月一回が目安） 測定終了後、機器および吸引口内部の清掃が必要である。</p> |
| <p>概算金額等</p> | <p>1現場あたり 600万～</p> |
| <p>特許・実用新案 NETIS等</p> | <p>特許出願中</p> |